

# 汗かこう

## ともにも

### 先輩から新人へ ④

レタス栽培が主力の農業生産法人トップリバー（御代田町）に入社して6年目。「最初の数年は食らい付いていくのに精いっぱい。とにかく、がむしゃらだった」。農場でパート従業員らと苗を植えたり、草取りをしたりの日々。5月下旬から10月末までの収穫期は、朝4時起きで日没まで畑にいたという。

ある日の休憩中、先輩から「質問してこないと何も教えないよ」と言われた。「強烈だった。自分で言うのも何ですが、おとなしい部類なので」と苦笑いする。それ以降、不安なことは遠慮せずに質問するようになった。

#### 農業生産法人トップリバー 農場長

伊藤 佑貴さん (30) = 富士見町



富士見町落合のレタス畑で苗を植える伊藤さん

# 怒られてばかりでも食らい付く

入社4年目の2015年から、富士見町にある農場の運営全般を担う農場長を務める。農業は「未知の領域だった」と言うが、苦勞を重ねて得た経験が今に生きていると実感している。

盛岡市出身で地元の高校を卒業後、埼玉大（さいたま市）に進学。物質が細胞内でどう変化するかを遺伝子レベルで研究する生体制御学を専攻し、大学院でも学んだ。研究職に進むことも考えたが、祖父が米やリンゴを栽培する農家だったこともあり、農業の道を選んだ。

インターネットで農業関係の企業を調べていた大学院1年の秋。「もうかる農業」をうたうトップリバーを知った。いずれ独立することを前提に農業経営を学ぶ新規就農者を募っており、「大きな農場を経営してみ

るのも、夢があつて面白いかもしれない」と就職を決めた。現在は、農場長として30畝ほどのレタス畑の管理を任されている。使用する農業や肥料の種類を決め、天候などに応じて栽培するレタスの品種を10種類近くから選ぶ。同社と富士見町、信州諏訪農協（諏訪市）が、レタスなどの作付面積を100畝に増やす構想のプロジェクトリーダーも務めている。

今年12月には、富士見町内で個人経営の農家として独立する予定だ。「これからは失敗すれば収入はゼロ」。不安も隠さないが、自分の責任で行動できることは楽しみでもある。農場で共に働く後輩9人には、「失敗を恐れずに積極的に動いてほしい」と期待する。「怒られてばかりだった自分もそうでしたから」と照れくさそうに笑った。